

『徳山駅周辺まちづくりシンポジウム』アンケート集計結果

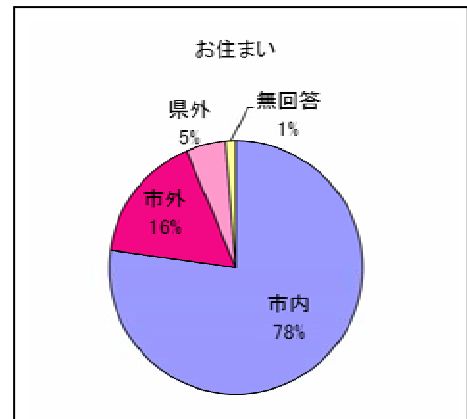
日時：平成 20 年 3 月 19 日(木) 13:30～16:30

場所：周南総合庁舎内「さくらホール」

回答者：80 名

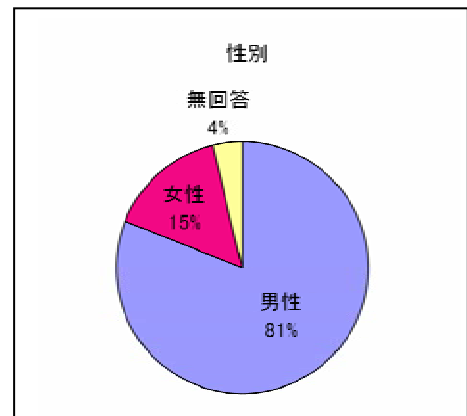
お住まい

- ・シンポジウムの参加者は、約 8 割が市内、約 2 割が市外となっている。



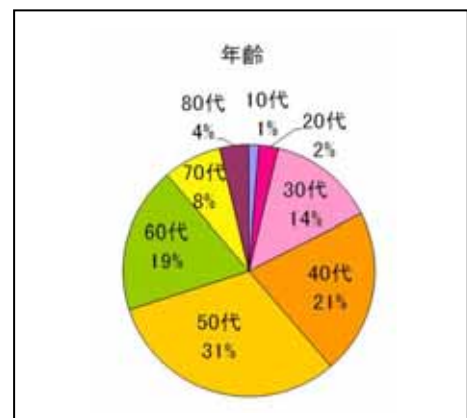
性別

- ・シンポジウムの参加者は、約 8 割が男性、約 2 割が女性となっている。半数以上が男性という結果となっている。



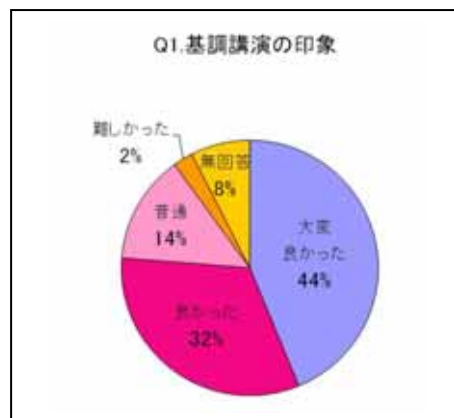
年齢

- ・シンポジウムの参加者は、50代が約 3 割と最も多く、次いで 40代、60代が 2 割と多い結果となっている。



Q1：基調講演「まちと駅と専門家」を聞いての印象

- ・大変良かったが約4割、良かったが3割であり、約7割が良かったという意見である。



【講演を聞いて良かったという意見】

- ・まちづくりの基本をわかりやすく説明されて、先生のお考えがよくわかった。(5名)
- ・経験豊富な篠原先生の話を直接聞いたのが良かった。(2名)
- ・素晴らしい駅に夢をかける。夢を描く事ができた。(2名)
- ・専門的なことは良く解らないが、「まちづくり」の進め方については、日頃考えていることと同じだった。参加者も大いに意を強くしたことと思う。

【講演内容に共感したという意見】

《次世代の市民のためのまちづくりに共感》(6名)

- ・今の時代に焦点を合わせるのではなく、将来の世代に重点を置き、まちのシンボルをどのように構築するかが解りやすかった。
- ・将来の市民のことも考えるという意見が非常に興味深かった。
- ・「50年先も使う人(市民)がいる。今の市民の意見だけで計画を決めない。」は大賛成。
- ・将来を見据えた話で50年先～100年先を考えたまちづくりに期待する。
- ・行政サイドの考え方を打破してでも長く愛されるまちと駅づくりに期待する。
- ・まちづくりは作り手の思いだけでなく、使い手の、しかも将来を含んだ便利さ、楽しさまで考えられている事に感銘を受けた。

《構想・設計・施工まで一貫したまちづくり(チームとして取り組み)に共感》(5名)

- ・企画から販売までの全ての人に関わり、最後までチームとして取り組む点は、物作り、まちづくり等の参考になる。また、駅を全国に向けて発信する場所として位置づけることは、新たなイメージが浮かび、市民全体が意識すれば周南市は変わるのでは、と期待が出てきた。
- ・プラン、設計、工事と一連のことが伝わるような手法は是非取り入れるべきと思った。
- ・鉄道、駅広場、商店街を一体となって設計、計画、建設する必要があると分かった。
- ・計画～建築まで、一貫したチームで推進することの重要性を感じた。
- ・他の都市に於ける駅周辺整備計画の取り組み、努力、専門家参画の重要性、必要性について理解できた。

《徳山の特徴を活かしたまちづくりに共感》(3名)

- ・周南市の歴史を意識した徳山駅周辺まちづくりを進めて欲しい。
- ・伝統文化発信元の役目を担っているとの指摘には目を見張らされた。
- ・それぞれが地域特性に応じた、素晴らしい駅及び駅周辺となることを期待している。

《歩いて暮らせるまちづくりに共感》(1名)

- ・「歩いて暮らせる町」に共感した。期待したい。

【講演を聞いての要望・疑問】

《シンポジウム等、市民への情報公開、市民参加の重要性について》(6名)

- ・市民生活に深くかかわることなので、市民の声が重要だと感じた。
- ・まだ市民も緊張がとけていない感じだが、回を重ね自由に意見が出るようになればよい。
- ・委員や関係者だけでなく、関心がある人々が計画に参加、もしくは進捗を知ることができる。
- ・演目の内容について更に詳しく話としてパブリックシェアすべき。
- ・行政と市民が一体となる駅前の整備が必要と思う。
- ・引き続きシンポジウムを開いて欲しい。

《商業の活性化、賑わいづくりを含めたまちづくりの重要性について》(2名)

- ・日向駅は立派になっているようだが、商店街に賑わいは？
- ・駅周辺の商業ゾーンとのかかわりの中で、いかに駅ビルを“グランドデザイン”するのか。その部分について考え方を聴きたかった。

【講演に不満な意見】

- ・終始自慢話なのでつまらなかった。
- ・解り易い説明だったが、強いて言えば少し手前ミソ。
- ・人の紹介や過去の実績の話で時間が多く取られた。
- ・何が良くて成功したのか、結果何が良かったのかわからない。

Q2：パネルディスカッションについての印象

【パネルディスカッションを聞いて良かったという意見】

- ・パネリスト(専門家)の様々な意見を聞け、考えがわかって良かった、思いが感じ取れた、参考になった、刺激を受けた。(13名)
- ・解決出来ない問題はない...と信じられるディスカッションだった。

【パネルディスカッション内容に共感したという意見】

《駅前広場、駅ビルの考え方について》(4名)

- ・「50年はもつ建物にする」考え方、本当に良い。
- ・「共生する広場」は新鮮に感じた。
- ・「昔あった駅前の広場を取り戻したい」という意見に大賛成。
- ・新幹線ホームから見える海が非常に印象的。ぜひ活用されると良いと思う。

《人優先の駅周辺整備(交通対策(歩行者優先))について》(8名)

- ・交通対策で、歩行者が最優先であることが再認識できた。
- ・「多少の不便をがまんしなければ、よい街をつくることはできないな」という感想を得た。
- ・公共交通の利用、活用を便利にすることが大切であること、ヨーロッパの街並みのように人を中心としたまちづくりに共感した。

- ・人中心の駅前広場に賛同（3名）
- ・人優先の街づくりについては市民全体のコンセンサスは全くとれておらず、駐車場や商店街、活性化の話にはばかり多く意見が集中しそうなので、合意形成に市の人に頑張ってもらいたい。
- ・人間中心を主軸としたデザインとし、車と共存できる駅前広場を基本コンセプトとするデザイン会議を進めていることに共感を覚えた。

【パネルディスカッションを聞いての要望・疑問】

《駅周辺整備について》（10名）

整備に向けての課題（5名）

- ・周南市の課題が正しく捉えられていない。市民の死活問題である。もう少し市の現在の課題を正しく把握し、課題解決に向けて、良いアイデアを出して欲しい。
- ・徳山駅周辺開発については、四半世紀同じ議論で調査、検討を行ってきましたが、そろそろ実行、具現化すべき時に来ているのではないのでしょうか。着実な第1歩を踏み出して欲しいと思う。
- ・市が苦しんでいる各建物のランニングコストが増大しないような仕組みのハードをお願いする。
- ・ボランティアでやってくれる人(グループ)を巻き込む仕組みが大切。思いや伝え方が大切。良いものを作ると周りが変わる。
- ・今の時期に周南市の顔である駅周辺整備はこのシンポジウムに代表されるように新しい周南づくりとして重要な機会である。

駅周辺に望むもの（5名）

- ・南北が遮断されていて、海が活かされていない。イベント広場が小さいのか？
- ・徳山港にも海の博物館が欲しい。
- ・南側に住む高齢者は、病院が駅北側で困っている。総合病院を駅南にとと思う。
- ・商工会議所ビルも古くなったので、この際駅ビルの中に移転させて欲しい。
- ・田んぼや池、緑を多くして安らげる広場をとの意見があったが、夜はホームレス等のたまり場になるのでやめた方がよい。

《中心市街地・商業の活性化、賑わいづくりを含めたまちづくりの重要性について》（8名）

- ・商店街は人が集まる場所化、シンボル、実利のある集約の要。既存の施設利用は、他地区商業地との競合が視点から外れている気がする。
- ・どの辺りに住んでいる人達のことを考えて計画しているのかが不明。
- ・どれだけ人が集まるのかが重要。
- ・いかにして他の地域から駅前へ人を集めるのかは、議論の対象となっていない。
- ・民側はあくまで素人。色々と思いや期待と希望があるが、基本的にはハードに人が順応して生活や商売をするべき。ハードはプロにお任せする。我々市民はソフトを頑張る。
- ・中心市街地の再生に繋がる、ゆとりのある駅前広場にして欲しい。(今のデザインでは何も変わらない。)
- ・駅周辺が綺麗になったら、人が増えて、町が賑やかになるとはいえないと思う。人を誘致できる魅力的な駅周辺の作り方に工夫して欲しい。
- ・素敵な駅ビルを建築するのではなく、人が集まる駅を作って欲しい。

【シンポジウム等市民への情報公開、市民参加の重要性について】(3名)

- ・この様なパネルディスカッションは数ヶ月に一回開催し、市民の意見を如何に取り入れて欲しい。
- ・どのように会議が進行されているかがわかって大変良かった。
- ・今後多くの意見を集約するのが難しいと思った。「みんなの意見を聞いた普通のモノができる」が印象だった。

【パネルディスカッションに不満な意見】

- ・お互いのディスカッションが少なく、キーワードが絞られておらず、まとまりが少しい。(4名)
- ・もう少し具体的な計画の内容を話して欲しかった。(3名)
- ・質疑応答、市民の発言など、一番大切な話の時間が少なく、少し物足りない。(3名)
- ・市側の立場の意見(代表者)がどれだけ東京組の方々に反映されているのか疑問に思った。「駅ビルを...つくって下さい。」などという表現など、主体は誰なのか?
- ・市としての考えを言う人(できれば首長であるべきであったと思う)が不在で、むなしい意見交換で終わったとしか思えない。

Q3 : 「周南らしさ」について

【近代産業(工都)】(19名)

- ・コンビナート(臨海工業地帯)(14名)
- ・コンビナートの夜景(テクノスケープ)
- ・コンビナート部との住工一帯まちづくりの再生。10万都市、日本のモデル都市。
- ・商都、工業都市としての活況(戦後の頃)
- ・徳山市に対しては「工場のマチ」、他の町には「イナカ、ミドリ」。

【近代産業と自然、歴史が共生するまち】(13名)

- ・自然(海と山)とコンビナート(工場)の調和(共存共栄するまち)[自然と人工](8名)
- ・自然とまちが共生する。市民に広くイメージとして定着しているコンビナートと、山や海の自然、それらを「環境」というキーワードで結んで日本をリードして欲しい。
- ・自然と産業資源が近接し、豊富にあること。
- ・歴史と伝統ある産業、文化、スポーツの盛んな地方都市。
- ・文化、歴史、自然を生かしたまちづくり。
- ・隣接する下松、光、防府市から集客できる市。工業、商業、文化、スポーツ等の中心的町。

【海と山があるまち(豊かな自然環境)】(8名)

- ・海に近いまち、ハイカラなまちなどが耳に残った。
- ・海の見える、港の見えるまち、また背後の緑の山並みが映えるまちが周南の風景。(2名)
- ・小洒落た緑豊かなまち。
- ・海と山の魅力を持ち合わせる都市。
- ・前は海、後ろは山、主要幹線は左右に数本街を貫き、市内中心部に多くの緑と公園を持ち、比較的グリッドのはっきりしたわかりやすい街の形をもった。
- ・メインストリート等の素晴らしい並木の緑。

《活気があるまち（商都）》（6名）

- ・活気があるまち。
- ・商都としての活況（戦後の頃）
- ・30年前、以上前の商店街が味わえること。昭和の街。（2名）
- ・商店街が集中している。

《暮らしやすいまち》（6名）

- ・暮らしやすいまち。（3名）
- ・コンパクトシティ。
- ・いなかであって、不便でない所。他をまねるのでなく、いなかのままが良い。
- ・小さいけど、整然で安全で便利で静かで、緑豊かと花のある町。

《その他》

- ・動物園があるまち。（3名）
- ・駅（新幹線が停車する）と港が近接していること。（2名）
- ・おしゃれでセンスの良いまち。このまちは日本列島の縮図。全ての要素がある。それがまた魅力。
- ・市民憲章のうたい文句が実践された都市。

《要望》

- ・4つの市町の集合体である周南市は、それぞれの地域によって考え方が少し違うように思うので、誇り、魅力について皆で考えることが大切。（2名）
- ・今の形を一時期動かさないで、「らしさ」を徹底的に追求することが必要。決定的な軸になるものを絞り込むのが難しい。
- ・理想的な生活空間形成の可能性を秘めた地域。瀬戸内海に面し、温暖気候と豊かな自然に恵まれた、駅周辺は土地が少ないので両隣の市の様に広い土地を同じようではなくても良い。逆に平面的で静かであっても良いと思う。
- ・「環境都市」として、低炭素時代をリードする街として目指すことも考えられる。次世代エネルギーの普及やビルなどの建造物の緑化等。

Q4：駅前広場の使い道について

《複合施設》（3名）

- ・生活環境として色々なことが集約できる場所（2名）
- ・駅前広場の道の駅にする。

《交流施設》（6名）

- ・イベント（ツリー祭り、出店、地元の産物等を売る、フリーマーケット、コンサートなど）（8名）
- ・出会い（待ち合わせ）の場所（5名）
- ・人との交流、市民の集い、ふれあいの場所（4名）
- ・屋台村（夜の交流の場）（夜（PM6：00以降）を賑やかにする工夫）（2名）
- ・情報発信の場（2名）
- ・遊びたくなる場所（子供と行きたくなる場所）

《休憩・憩いの施設》（10名）

- ・憩いの場所（4名） / 休憩場所（3名） / くつろげる場所（2名）

- ・一人でも時間がつぶせる場所

《商業施設》(2名)

- ・オープンカフェ(2名)

《交通機能》(9名)

- ・交通機能の充実(3名) / 歩行者中心の交通機能(2名)
- ・バスの利便性。
- ・地下駐車場との連絡性(地下通路も検討)(2名)

《オープンスペース(広場機能)》(7名)

- ・芝生、森林等だけの広大な広場(3名)
- ・何もない広場(御幸通りも含めて朝取り野菜市などをおこなう。災害時にも役立つ)(3名)
- ・駅前は広場機能を前面に出し、交通機能は交通弱者も多く集えるように移転。(3名)
- ・現 GL 面を交通機能とし、地上地盤面を活用して広い(100m×60m程度)広場として利用。御幸通りの並木と連続するような緑の配置する広場。

《シンボル空間》(4名)

- ・常に徳山を感じられる場所
- ・自慢出来る場所。
- ・「都市の顔」であるため地域の特徴が1日でわかること。街の活性化のエンジンとしての役割。
- ・この広場から市民や県民広くは世界の人々が集まり“周南の力”が発揮できることを期待。

Q5：自由意見

《これからの周南市のまちづくりについての要望》

- ・周南が100年後に残したい景観、文化は何かを議論すべき。
- ・人々が大事にされていると感じられる町に。文化が大事にされていると感じられる町に。小都市でも何かを発信するような活動が駅を中心に企画されること。
- ・若い人が残るようにするか、帰ってくるかの魅力あるようにすることが重要である。若い人にも魅力的なまち。(2名)
- ・車社会にも対応できる人の集中できるまち。
- ・歩かない、持たない、引き返さない。そんなことのないまち「歩くまち」。
- ・人が徳山駅で降りて、足を止めて、町をまわってもらえる方法を工夫して欲しい。
- ・周辺町の人を誘致できる方法を考える。
- ・街中のイベントも含めてもっと盛り上がる工夫をまちづくりに盛り込んで欲しい。リピート者が多くなるまち。
- ・「地域資源にはいいものがある(海、御幸通り、アーケードなど)」という意見に対して、市民でもう一度見直す、掘り起こす作業をすべきだと思った。
- ・とにかくスピード！早く着手する事。(2名)

《中心市街地・商業の活性化、賑わいづくりを含めたまちづくりの要望》

- ・中心市街地再生の必要性を議論して欲しい。
- ・商的環境の支援整備事業が中心部の活性化に直結するとは思えない。

- ・駅の周辺整備で、駅と駅前広場を美しくした所でもうひとつの目的である活性化に繋がるとは思えない。
- ・活性化は、魅力ある中心市街地を創生するという地方の熱意がないとダメ。
- ・整備されても、人は増加定住しないと、人が集まらないと活性化に繋がらない。(2名)

《駅周辺整備についての要望》

徳山の特徴を活かした整備

- ・昭和 20 年敗戦米国の空襲で焼土と化した街から 4 車線(歩道)の市道と両方に緑の植木を植えて、他市に類似のない市道を造っている。後世に残すにふさわしい都市計画を頼む。
- ・港と新幹線が近いのを活用する事を考えて欲しい。
- ・神戸のハーバーランドのようなウォーターフロント開発と港、工場群の景観にも配慮して欲しい。

まちの中心(シンボル)となる整備

- ・子供に誇れる徳山駅周辺整備を実現して欲しい。
- ・駅をみた時、活力のある駅前にして欲しい。賑わっている方が、元気がでる。
- ・世代を超えて利用しやすい明るく玄関口にふさわしい駅になるよう期待している。
- ・全国に誇れるオンリーワンの駅周辺整備を皆の協力で行っていきたいと思う。

駅周辺の一体的な整備

- ・徳山駅前周辺整備とあるが、駅裏周辺整備も同時に計画してもらいたい。フェリー乗り場、大津島巡航発着場整備の進行が安全運航のため、移転も含めての計画となるのかと思う。
- ・駅西口の再開発も含めてご検討いただきたい。
- ・南の港の再開発の方が、徳山の顔を打ち出すには効果的であると思う。
- ・南北が分断されていて、広さが感じられない。JR の在来線を高架にすべきと思う。

駅周辺と商店街との連携した整備

- ・駅と商店街の連携が必要だと思う。また、若者が少ないのは、若者が集まる商店街がないのが大きな原因であると思う。駅の整備を高齢者のためにするのであれば、より若者の縮小につながるもので、ユニバーサルデザインな駅の整備をしてもらいたい。
- ・駅から近い店舗の有効利用を考え、再配置できないのか。
- ・市民のコミュニケーションができるカフェなども、増やすことから始めればどうか。駅ビルの建て替えは、魅力的だが、商店街区域の協力によって再活性化できる部分も多いのではないだろうか。

駅前広場の整備

- ・駅前のロータリーは東西方向に歩く場合、大河に遮られているような感じを与える。
- ・駅前広場がバス、タクシー等交通機関でふさがっているところはあまりないように思う。広々とした広場をつくり出すことが第一。
- ・タクシーはサブ駐車場に対応する。子供の場にかえすべきだと思った。
- ・人と車とが共存し、デザインによって安全を確保するべきだと思った。
- ・周南道路の構想との関連はどうなっているのか。特に海岸線の東伸が必要ですが、駅南広場との連携を考えることもいるのでは。
- ・マイカーありきの生活が当たり前と考えていると思われるが、この人々にモビリティマネジメン

トの考え方を少しでも理解していただければ、かなり見方や発言が変わってくると思われる。

- ・公共交通等の既得権に優先されることなく、歩行者を優位に考えた配置をして欲しい。
- ・駅前広場は模型を見ると、今現在のまま、新しくなっただけで、決して使いやすいようには思えない。
- ・交通の結節点（15万の人々が利用する駅）という面を重視して計画、デザインして欲しい。（2名）

駅ビルの整備

- ・駅ビルの建て替え無しで考えた方がよい。
- ・建物を全面的に改造するのではなく、いかにコンパクトに固める事が出来るか。
- ・駅ビルを解体し、新しく建つビルの内容も様々。今後の周南市の公共施設整備の全体計画が見えない。重視したムダな公共施設が増えるだけでは。
- ・駅ビル建て替えは、先ず JR 徳山駅を橋上駅に移転することが前提になっている。建て替え工事着工までにあと何年を要するのか？その後の駅ビル建て替えが合併特例債に間に合うのか？
- ・橋上駅を止めて駅舎のみの駅ビルにして公共施設に入れないことも検討すべき。
- ・あるいは橋上駅にするとしたら駅ビルは建てないで広場を広くしたらどうか？そうすれば新幹線のホームから御幸通りが見える。
- ・周防灘には震度 7 位の活断層があると報道されているので、震度 7 に耐震度を持つ構造で、少子高齢化の時代であるが少なくとも 100 年位は使える建造物であって欲しいと希望する。
- ・駅ビルから広場を眺めるだけでなく、駅ビルから鉄道を眺められるビルが良いと思う。子供達が新幹線や電車を眺められる楽しい場所であって欲しい。
- ・徳山 = 良港で発展してきた。港を囲む島々と島影に沈んでいく夕日と雲はいつも眺めていたい。多くの人にゆつとりと眺めて欲しい風景。山側、海側の眺めも活かして欲しい。展望タワーは無理か？
- ・駅ビルを「市役所」にしては？街なかの市役所として先駆的なケースとなる。
- ・駅ビルに小ホールはどうか。そのためには駐車場も必要。
- ・駅ビルの入居者、医院、クリニック、ユニクロ、100 均、食堂、交流センター、公共施設の窓口を置く。

南北自由通路の整備

- ・南北自由通路のバリアフリー化と合わせて、駅を橋上化するのには良いと思うが、自由通路で南北の『交流』を目指すのであれば、南側広場の整備、活性化が必要ではないか。北側のみを整備しても、南側に目的地となりうる『何か』がなければ、通路機能のみで終わってしまう。

〈シンポジウム等市民への情報公開、市民参加の要望〉（18名）

- ・計画が進捗する度合でシンポジウムや公開する等、イベントを多く開催し、市民に情報提示して欲しい。楽しみにしている。（10名）
- ・計画の進み具合を時々市広報に載せて欲しい。
- ・シンポジウムは案を作成する初期の段階から、数回開催して欲しい。
- ・一度委員会も見に行きたいと思った。
- ・もう少し市民の意見を広く出せる場を設ける。
- ・市民に周辺整備の必要性をはっきりと説明し、理解されなければ市民からよいと言われることは

ない。ぜひ、もっと必要性をアピールしてほしい。

- ・ 図面だけでなく、絵にしてご提案いただけたら、市民はわかりやすい。
- ・ 行動できる有志を募って、専門家の先生、市の職員の方、市民が一体となって良い街をつくっていきたい。
- ・ 景観デザイン等非常に良い視点で考えられていると思う。市は将来の人材を育成することが大切だと考えている。地元の若者の意見も取り入れて欲しい。